

島田市公共建築物管理適正化基本方針 概要

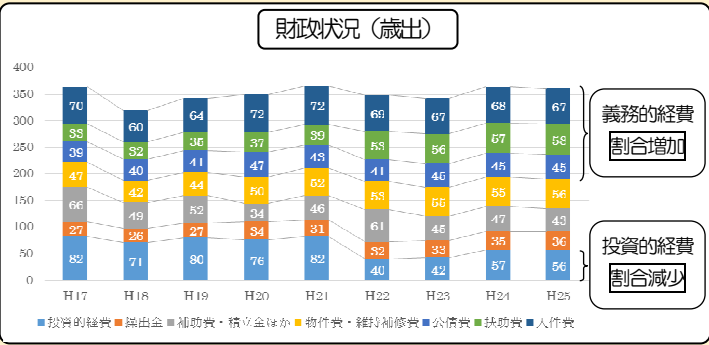
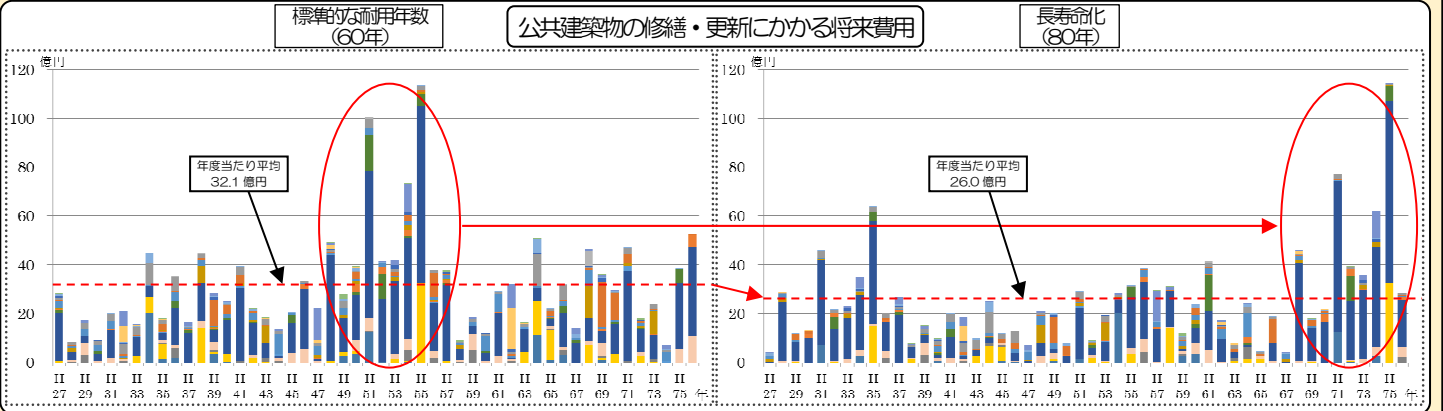
はじめに

- 経緯**
- 中央道笹子トンネル事故などを契機に、老朽インフラの単層的な維持管理・更新の必要性が広く認識されるように。
 - 島田市では、平成26年度から「公共施設マネジメント」の取組を本格的にスタート → 「公共施設白書」を作成し、平成27年2月に公表

「基本方針」の策定趣旨

今後の人口・財政の予測に基づき、「島田市として将来どれだけ公共建築物を持てるか」の目安などを明らかにすることを通して、公共建築物（いわゆる「ハコモノ」）の適正管理のための基本的な方針を示します。

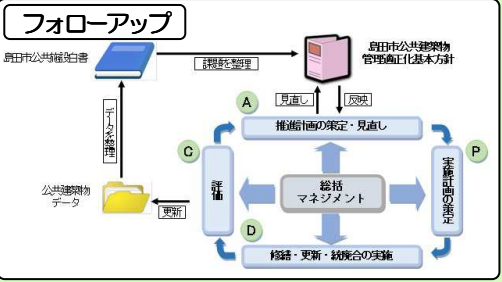
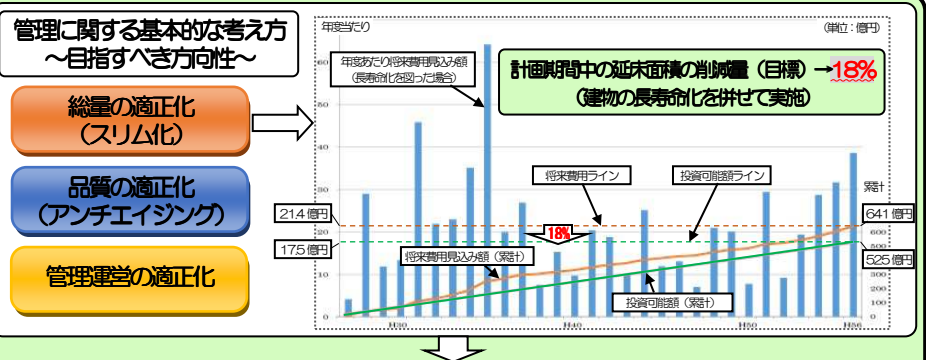
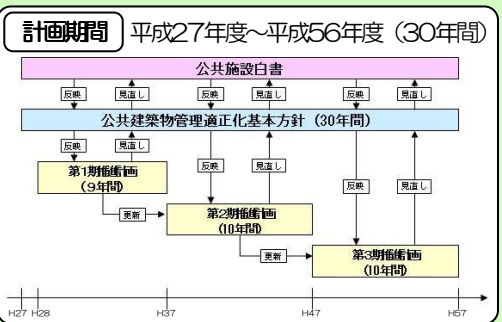
1 現状及び課題



まとめ

| 区分 | 公共建築物の現状・将来の見通し | 公共建築物を取り巻く諸情勢 |
|-------|---|--|
| 品質の視点 | 建築後30年以上経過した建物が多く、設備も含め老朽化が進行 | 福祉機能の向上(ユニバーサルデザイン)、環境負荷の軽減(省CO2)、情報化などへの対応の要請 |
| 供給の視点 | 合併に伴い公共建築物の配置の在り方の根本的な見直しが必要 | 人口構成の変化に伴い、公共建築物に対するニーズが変化 |
| 財務の視点 | 昭和50年代に集中的に整備された建物が一斉に老朽化することで、修繕及び更新に係る費用が増大 | 生産年齢人口の減少に伴う収支減、高齢化の進展に伴う歳出に占める義務的経費の割合の増加等が予測され、建物の修繕・更新や維持管理に係る費用の確保が困難に |

2 基本的な方針



適正化に向けた取組に関する考え方

| 評価区分 | 評価の視点 | 評価指標 |
|---------|-------------------|-------------------------------------|
| 品質(ハード) | 建物の劣化状況 建物の安全性 | 築年数 耐震対応率 |
| 供給(ソフト) | 施設の利用状況 | 利用率 |
| 財務(ソフト) | 施設の収支状況 | 面積当たり利用量 面積当たり市負担額 利用量当たり市負担額 |

将来の方向性

| | |
|---------------------------|--------------------------|
| 建物方針の検討 更新・統廃合... | 現状維持 長寿命化(予防保全) |
| 抜本的見直し 施設廃止 建物処分... | 施設利用方針の検討 用途変更・複合化... |

品質(ハード) : 低 | 品質(ハード) : 高
供給・財務(ソフト) : 高 | 供給・財務(ソフト) : 低

3 当面の取組

- 土木構造物(道路・橋りょう等)
- 白書・基本方針改訂
- 策定済長寿命化計画の見直し
- 広域的な取組の推進